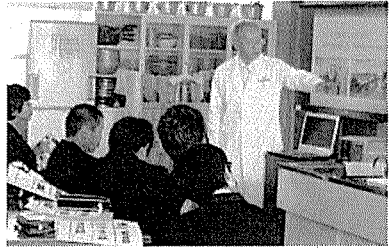


TOKYO X-Association が地産地消、都内中学校で食育授業を行う



TOKYO X-Association (植村光一郎会長) は25日、東京・北区稲付中学校で2年生4クラスを対象(生徒130人)にして、東京X豚肉をテーマに社会科の授業(写真)を行った。TOKYO X豚肉は、給食普及会を通して多い月では2t以上を使用することがあり、TOKYO X-Associationが普及会を通して授業協力にこたえたもの。授業は、植村会長が教壇に立ち食料自給率と地産地消をテーマに、具体例としてTOKYO Xを取り上げて都市型農業の現状やAnimal welfare(動物福祉)について説明。豚が豚肉になる工程とブロック肉からのスライスパック製造の実演も行われた。130人の生徒たちは、前日に東京X豚肉を給食で食べていたため注目度も高く熱心にメモを取っていた。スライス実演では、ポークソテー用、トンカツ用、しよらが焼き用、焼き肉用、切り落とし、薄切りなどが商品化され、普段みられない実演に熱い視線を送っていた。

植村会長は「給食でTOKYO Xを使用し始めたのは東京都の指導で7年前になり、当初はサンプル程度だったが、最近は2tを超える月もある。食育を通してのTOKYO Xの普及活動に大きな期待を込めており、このような地道な認知活動がますます重要になってくるだろう」と話していた。

北海道枝肉共励会、全農MF西日本が乳用最優秀牛1205円購買

ホクレンが主催する第36回北海道枝肉共励会(乳用雄肥育牛と交雑牛の部)が11日、北海道畜産公社十勝工場で開催された。乳用雄肥育牛の部の最優秀牛には、ひらやまファームの出品牛(枝肉重量497・0kg、格付B3)が輝き、JA全農ミートフーズ(株)西日本が単価1205円で購買した。

また交雑牛の部の最優秀牛には、(有)上田畜産の出品牛(501・0kg、A4)が選ばれ、(株)中村畜産が単価1860円で買い受けた。共励会はホクレン畜産販売部の藤田智部長のあいさつでせりが開始され、134頭(乳用雄肥育牛64頭すべて去勢、交雑牛70頭うち雌33頭、去勢37頭)が出品された。最優秀賞以下の主な結果は次のとおり(出品者、購買者、単価、枝肉重量、格付)。

「乳用雄肥育牛部」優秀1席牛Ⅱ(今部直廣、JA全農ミートフーズ(株)東日本、1100円、446・0kg、B2)▽優秀2席牛Ⅱ(大野淳、(株)近商ストア、1130円、483・0kg、B2)▽優秀3席牛Ⅱ(新上肉用牛牧場、JA全農ミートフーズ(株)中京支社、960円、446・0kg、B2)。

「交雑牛の部」優秀1席牛Ⅱ(有)グリーンサポート、JA全農ミートフーズ(株)西日本、1710円、422・0kg、B4)▽優秀2席牛Ⅱ(田中清隆、ホクレン販売部、1520円、487・0kg、B4)▽優秀3席牛Ⅱ(サロマ牛肥育センター(有)、JA全農ミートフーズ(株)東日本、1600円、525・0kg、A4)。